



未来型医療創造卓越大学院プログラム  
Advanced Graduate Program for Future Medicine and Health Care

# 気仙沼市立病院 BC研修報告

## 3期F班

## 1. 実習先

気仙沼市立病院

## 2. 授業前の知識

メンバー各々の前提知識や特徴を下記に記す。

- a. 整形外科医 5年間人口30万以下の地方都市を巡って働いてきた。
- b. 生命科学研究科所属  
研究テーマ：ADHDの診断予測プログラム作成  
保健所で勤務した経験から、病院や医療に関する知識を多少持っている。
- c. 中国人留学生。研究テーマはMP細胞（一種のT細胞）の性質の解析。1年だけ中国病院でのローテーション経験有。

## 3. 授業の目的

高齢化が進む地域での地域医療のあり方の現状を把握する。

## 4. 到達目標

地域医療におけるニーズを発見する。

## 5. 授業内容

1日目 気仙沼市立病院の役割と現状、脳外科、循環器科の現状についてお話を伺った。

2日目 午前中は院内の施設見学を、午後は本吉病院での訪問医療を見学させていただいた。

3日目 午前中は伝承館の見学を、午後は医療連携、WOC、感染管理、胃がんの講義を聴講した。

4日目 透析室と手術室を見学、食道癌と呼吸器の講義を聴講した。

5日目 成果報告を行った。

## 6. 研究や仕事に活かせる点

- a. 今まで地域医療の現場で働いてきたと思っていたが、気仙沼はより医療資源が限られており、より地域医療に対する問題意識を感じた。そうした環境でよりよい医療を行おうという取り組みは非常に参考になった。今後の仕事はもちろん、研究のモチベーションにもなった。
- b. 「地域医療」に対する印象があまりなかったが、具体的にどのような方法でもって医療サービスが提供されているのか理解することができた。地域の人口動態や年齢層などの特色に応じて、その地域にあった医療提供のあり方を模索することの意義を再確認した。
- c. 日本の医療・地域医療制度についてはじめて詳しく理解した。留学したばかりで病院に行きたいときステップが分からず戸惑っていた時期もあったが、次病院に行く時はきちんと行けると思う。日本の先端な医療制度を見習って、中国にそれを伝える・実現する仕事を進路にするのもいいと感じた。

## 7. 影響を受けたこと

- a. 医師もパラメディカルも志望者少なく、Dxによる省人化が貢献しやすい地域だと感じた。一方で高齢者にハイテクなサービスを使っていただくのは思っていた以上に困難であることも実感できた。もてはやされるテクノロジーは多数あるが、社会実装は容易ではなく、一次情報に触れて、社会への解像度を高くしていく必要があると強く感じた。
- b. 医療関連ICT導入の有用性が示唆されているのにもかかわらず、なぜ普及していないのかを考える良い機会になった。特に在宅診療の現場を見学した際、「据え置き型の人工呼吸器やパルスオキシメーターの管理が大変」という患者の家族の声を聞き、医療者向けの機器を一般の患者がより使いやすいデザインにできないかと考えるようになった。
- c. 人口高齢化がかなり進んでいる印象はあったが、そのための施設改革もかなり進んでいるイメージもあった。保険の範囲が幅広く、リハビリテーション・退院支援まで保険範囲で、更に指定難病・透析などがほとんど無料なのはびっくりした。ここまで保険や制度が充実していると、根本的には病院ではなく国の経済に関わる問題なのではと感じ、その範囲の自分の知識はまだまだ浅かったため、もう少し詳しく勉強して行こうと思った。

## 8. 来年度以降の改善点

- a. ASU研修のように課題が決められていたほうが有意義な研修になりやすいかもしれないと思った。
- b. 講義を受ける際や現場を見学する際に、医療者でないとわからないような機器や単語を見聞きすることがかなり多かった。医学系のバックグラウンドを持たない学生でも現場が理解できるよう、ある程度の予習をしておく必要があったと感じた。
- c. 自分が何をテーマにすべきかわからないまま来たのもあって、最後まで何をメインで聞けばいいか決まらず、浅い内容の質問や発表になってしまった。ここに着目しようと自分で1,2日目に決めてそれを重点に質問して発表準備すべきだった。

## 9. 授業の限界

- a. 参加者の病院や地域医療に対する知識や経験のばらつきが大きいので授業の対象設定が難しいなと思った。
- b. コロナ感染が拡大している影響もあって、院内見学をはじめとした研修活動の幅が少し狭くなった。患者から話を聞く機会が訪問診療以外の場以外になかったため、医療者の視点のみから分析をする他なくなってしまったのが残念だと思う。
- c. 日本の地域医療や病院を初めて知った状態で、他の場所とは比べられなかったため、新しくリニューアルされた気仙沼市立病院が一体どのくらい代表的であるかわかる術がなかった。ローテーション時代主に入院棟にいたが、今回はコロナウイルスの影響で見れなかったため、一番興味があった所を確認できなくて残念だった。

## 10. まとめ

- a. 地域医療の現場を見れて、テクノロジーの導入への困難さがわかるとともに、モチベーションが上がった。コロナ禍の中、暖かく受け入れてくださった皆様、大変ありがとうございました。
- b. 地域医療の実態を、講義だけでなく現場見学を通じて学ぶことができ、大変貴重な経験をしたと思う。自分の研究に生かせるような知識は残念ながら得ることができなかったが、この研修を通じて得た知見や現場を見て感じたことを細かくまとめ、後に必要になった時に振り返ることができるよう整理しておきたい。
- c. 確かにここが問題だなとは感じた所はいくつかありましたが、地域医療とは言え基本的に一通り整っていて、どちらかという目からうろこだと感ずる事がすごく多かったです。このような研修を儲けていただきとても光栄だと感じました。